

北海道洞爺湖サミット 開催近づく

きれい
各国



ウチダザリガニを計測する児童ら



花の植栽を熱心に行うMOVE参加者

洞爺湖の中もきれいに 「洞爺湖湖底 クリーンナップ」開く

虻田4区自治会 花壇整備でサミット協力

虻田4区自治会（村上清虎会長）が、道道洞爺虻田線と国道37号の交差点横などに、「歓迎北海道洞爺湖サミット」と書いた花壇を設置し、道行くドライバーにサミット成功をアピールしています。

4月4日、自治会員約15人が参加し、1.5m×4mの花壇6カ所に、パンジー840株を植栽しました。

自治会としても、何かサミット関連でお手伝いできないかという話が会内部からあり、この日の花壇整備に結びつきました。



花壇整備でおもてなし

洞爺湖の湖底もきれいにサミットを迎えようと「洞爺湖湖底クリーンナップ」（主催 UW クリーンレイク洞爺湖代表室田欣弘）が洞爺湖温泉駅前棧橋前の特設会場で行われました。

特定外来生物のウチダザリガニの生態調査を通じて環境問題を考えてもらい、同時に湖底のごみも拾おうと行われたイベントで、親子連れら約110人が参加。

開会式では、室田代表が「湖底をきれいに、環境について考えていきましょう」と挨拶。

来賓として出席した長崎町長は「海と川と湖を大事にしていきたい」と環境の大切さをアピールしました。

参加者は、ダイバーが潜って捕獲した100匹以上のウチダザリガニの計測を行い、実態について話を聞きました。

湖底のゴミ清掃では、ダイバー約10人が潜水し、約1時間で缶やビンのほか、自転車やベンチ、タイヤなどの大型ゴミを引上げました。

子ども達は、これらのゴミを見て驚きの様子でした。